

個別支援学級（わかば級・のぞみ級）生活単元学習の実践

1. 単元名 「カフェをひらいて、家ぞくを しょうたいしよう！」全26時間 本時23時間目

2. 単元目標

○カフェに向けて、看板や飾り、メニュー表などの ものづくりを楽しむことができる。
○調理やレジ、接客などの活動に参加することができる。
○よりよいカフェにするために、思いや考えを伝え合いながら活動することができる。

3. 「ひびきあう三の丸の子どもたち」をめざすための指導の工夫

研究課題・・・子どもが解決したい問題を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成
手立て・・・子どもの思いや願いの育ちを見とった単元構想と授業づくり

個別支援学級ブロックテーマ

「感じる心・気持ちを伝える自分」

4. 単元と指導

【単元について】

本単元は、昨年度に行った「お茶会をしよう」と「わくわくフェスタでバザーを開こう」という2つの学習を発展させた内容である。

一部の児童は昨年度、畑で育てたハーブティーを用いたお茶会の学習を行っている。それを受けて今年度も、お茶を教材とした学習を継続している。児童は、料理することやお茶を飲むことに興味・関心をもっている。これまで、炒り卵、ゆで野菜、梅ジャム、梅干しなどの調理や、地域にあるお店（伊藤園）でお茶の飲み比べなどを体験している。それらの過程で、児童の中に、お茶や料理を大切な人に味わってもらいたい気持ちが生まれている。昨年度、畑で育てたハーブを使って友だちとお茶会をした経験から、今年度は、家族を呼んでカフェをしたい、と話している児童もいる。また、一部は、これまで一緒に過ごしてきた6年生のために、3月にお茶会をしたいと話している。

個学全体では、昨年度わくわくフェスタでのバザーの計画・準備・実行をしている経験から、今年度も、個学全員で協力して接客やレジ対応などを行いたいという気持ちがある。カフェに向けた活動では、児童が「大切な人においしいものを食べてもらいたい」という理想状況への憧れを動機として、目的意識をもって学習に向かう姿が期待できる。また、この学習では、調理、接客、看板作りなど、さまざまな役割があるため、児童が自分の興味・関心や得意に合わせて、自分の役割を果たす中で、児童がそれぞれにもっている自立活動上の課題を達成できると考えられる。以上のことから、本題材を設定した。

【指導について】

個学児童は、1年生から6年生まで実態も様々な子どもたちなので、この単元での取り組みは、個々の段階によって違った内容になると予想される。そこで、経験が多い子どもたちや教師のサポート無しで行える子どもたちは、自分たちで調べたり、サポートが必要な子たちに自分が身に着けた技能を伝えたりする活動が展開されるように指導したい。例えば、児童が販売のコツを考えたり下級生のサポートをしたりするなどである。販売を通じてコミュニケーションを楽しみながら、カフェでお客さんをもてなす時の言葉や行動の仕方についての知識をつけていきたい。自力での活動が難しい児童へは、自分が作りたいものを選んだり、サポートを受けながら作ったりする活動を通じてものづくりやみんなと一緒に活動する楽しさを経験する機会をつくりたい。また、児童の実態により、言葉だけでは理解が難しい児童もいるので、イラスト入りのカードやお店屋さん体験によって楽し

く関わられるように指導していく。

カフェの練習をしていく中で、

お客さんを意識しながらおいしいお茶をいれたり、お客さんに喜んでもらうために丁寧に接客したりしようとする姿（主体）	・	困っている友だちに言葉をかけたり、販売体験を通じて関わり合ったりする姿（知・技）	・	よりよいお店にする為にアイデアを出し合い、友だち同士で協力しようとする姿（思・判・表）
--	---	--	---	---

を個学の児童のひびき合いの姿としたい。

5 単元構想

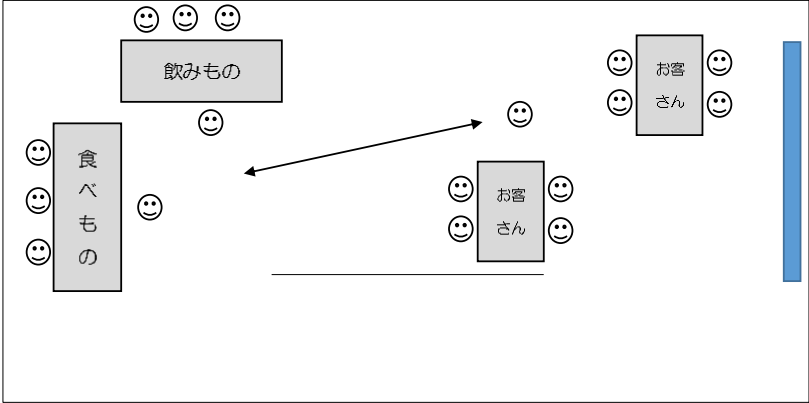
7. 単元構想 個学 生活単元学習 「カフェをひらいて、家ぞくを しょうたいしよう！」全26時間 本時23時間目



6 本時について

8 本時の学習

- (1) 本時の目標：カフェの練習を通して、お客さん役の教師や友達とコミュニケーションをとることができる。
- (2) 個別の目標：(別紙3 参照)
- (3) 本時の展開

学習活動			主な支援・留意点・【評価】
カフェの れんしゅうを しよう！ ☆かっこいい店員さんになるために☆ ・「いらっしゃいませ」「ありがとうございます」をいう。 ・笑顔であいさつをする。 			・前時までの学習をふりかえり、本時の活動を確認する。 ・めあてと学習の流れを提示し、見通しがもてるようにする。 ・お客さんと接する際のポイントについて、言葉カード提示しておく。 ・レジ用の計算用紙を、用意しておく。 ・計算が困難な時は支援する。 教師の出どころ ・店員とお客のやり取りが困難な時は、個に合わせた支援をする。 ・子どもの発言したことやつぶやきから、子どもの感じていることや気持ちを汲み取り、振り返りにつなげる。 【評価】別紙3参照
注文を取る人	食べものをを用意する人	お客さん	
・いらっしゃいませ。 ・ご注文は、何にしますか？ ・どうぞ。	・お茶をいれる。 ・食べものをを用意する。	・口をください。 ・ありがとうございます。 ・いただきます。	

7 実践を終えて

<成果>

- ・単元構想全体を通して、児童の興味のある内容だったため、意欲的な学びになっていた。様々な教科の学びに結びついていく内容だった。
- ・カフェで人と関わるための練習などは、教師が実際に手本を見せたり、具体物を使って本番と同じようにやったりしたことで、児童にとって分かりやすく、イメージがしやすかった。
- ・カフェの仕事とお客さんの両方の立場を経験することで、相手意識がもてた。
- ・カフェの本番に向けて、接客の仕方を繰り返し練習したことで、最初は全く参加できなかった児童も、自分なりのやり方で参加する姿が見られた。
- ・カフェの環境（店員の動線、テーブルの配置、お茶やお菓子の事前準備等）を整えることで、児童のやることが明確になり、当日もスムーズに動くことができた。
- ・教師が児童の活動を価値化することで、よい活動が広がっていった。

<課題>

- ・伊藤園の出前授業でお茶の入れ方を学び、それを家族にも出してあげたいという思いからカフェの活動が始まったが、実際のカフェでは一人一人に急須で親に入れることは難しかった。そのため、お茶を入れるという最初の目的からはずれてしまった。実現可能かどうかをしっかりと考えてから進めるようにしたい。

<個学としてのひびき合いの姿について>

- ・上手な児童のやり方を下学年が真似をしたり、自分がカフェに行った経験をシェアしたりすることで、児童同士がお互いに関わりあう姿が見られた。
- ・大人数の場面や、言葉でのコミュニケーションが苦手な児童もいるため、それぞれの児童に合わせた参加の方法を考えた。お客さんとして参加したり、見て学んだりする姿が見られた。